

# オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	疫病	葉病	苗病	灰色病	黒斑病	うどんこ病	葉枯細菌病
タチガレン液	32		*c	2			Ⓐ				
トップジンM水㊦	1		1	3		⊙					
ベンレート水㊧	1		1	3		⊙					
アフエットFL	7		1	3				⊙		⊙	
パレードFL	7		1	3						⊙	
アミスター20FL	11		1	2						⊙	
ファンタジスタ顆水	11		1	3		⊙		⊙		⊙	
トリフミン水	3		1	3		⊙			⊙	⊙	
ロブラール水	2		1	3				⊙	⊙		
リゾレックス水	14		*a	2							
オーソサイド水80	M4		*e	2				⊙			
ダコニール1000FL	M5		1	5		⊙					
モレスタン水	M10		1	3						⊙	
ユニフォーム粒剤	4・11		*b	1				⊙			
				1	3	⊙					
カスミンボルドー水	24・M1		*d	3							⊙

㊦:チオファネートメチル含有剤 ⊙:ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での⊙は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

\*a:は種時及び子葉展開時 \*b:は種前 \*c:は種時～発芽初期

\*d:収穫開始7日前まで \*e:は種後から2～3葉期まで

Ⓐ:ピシウム菌による病害 Ⓡ:リゾクトニア菌による病害

# オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用条件	ア	コ	ヨ	カ	ア	ヨ	ハ	オ	ネ	ハ	ネ
						ブ	ナ	コ	メ	ザ	ト	ス	オ	キ	ダ	コ
						ラ	ジ	コ	ム	ミ	ウ	モ	タ	リ	ダ	ブ
						ム	バ	バ	シ	ウ	ム	ヨ	バ	ム	ニ	セ
						シ	イ	イ	マ	ム	ト	コ	シ	シ	シ	ン
						類	類	類	類	シ	ウ	ガ	類	類	類	チュ
																ウ
オルトラン水	1B		*e	1		◎		フ								
オルトラン粒	1B		*f	2		◎										
ダイアジノン粒5	1B		*h	2										◎		
ネマキック粒	1B		*b	1												◎
ネマトリンエース粒	1B		*a	1												◎
アディオソ乳	3A			1	3	◎			◎			◎				
ガードベイトA粒	3A		*c	3										◎		
トレボン乳	3A			1	3	◎			◎							
アクタラ顆溶	4A			1	3	◎										
アドマイヤーFL	4A	劇		1	3	施◎				◎						
アルバリン顆溶	4A			1	2	◎		フ								
スタークル顆溶	4A															
アルバリン粒	4A		*g	1		◎										
スタークル粒	4A															
モスピラン顆溶	4A	劇		1	3	◎										
ダントツ溶	4A			1	3	◎										
アフアーム乳	6			1	2									◎		
コルト顆水	9B			1	3	◎	◎									
チェス顆水	9B			1	3	◎										
コテツFL	13	劇		1	2							◎	◎			
アタブロン乳	15			1	4						◎	◎	◎			
カスケード乳	15			1	2							◎	◎			
マトリックFL	18			1	3							◎				
フェニックス顆水	28			1	2							◎				
プレバゾンFL5	28			1	3							◎	◎			
ベネビアOD	28		*d	3		◎										
ウララDF	29			1	3	◎		フ								
グレーシア乳	30			1	2							◎	◎			
プレオFL	UN			1	2							◎	◎			
モレスタン水	UN			1	3											◎

\*a:は種前 \*b:は種又は定植前 \*c:は種時～生育初期 \*d:収穫開始3日前まで

\*e:収穫開始7日前まで \*f:収穫開始14日前まで

\*g:生育期(但し、収穫開始14日前まで) \*h:収穫開始30日前まで

施:施設栽培

フ:フタテンミドリヒメヨコバイ

## オクラ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒根病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	
	育苗期～生育初期	・発病株は早めに処分する。	
半身萎凋病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌は多犯性で、ナス、トマト、イチゴ、ウドなどをおかす。
	生育期	・発病株は早めに処分する。	
葉すす病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤⑦ 1500倍	
苗立枯病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	本病は主にピシウム菌、リゾクトニア菌による。  #1 ピシウム菌にのみ有効。 #2 リゾクトニア菌にのみ有効。
	播種時	1. 過密な播種を避け、育苗床の過湿に注意する。 2. 次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤#1 500～1000倍 50～200ml/株 リゾレックス水和剤#2 1000倍 150ml/植穴(1ℓ/土壌1㎡)	
うどんこ病・ハダニ類	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 モレスタン水和剤 3000倍	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	
オオタバコガ	生育期	1. 被害果を処分し、周辺に幼虫がいたら捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	虫糞などで幼虫の発生を確認する。
ネコブセンチュウ	播種前	1. 発生圃場では被害残物(地下部)を取り除いておく。 2. 前作物に寄生が認められたところでは、土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 3. 次の薬剤を全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	
その他の病害虫		フタトガリコヤガ、ワタノメイガ	